

## 不気味なシンボルの横行

世界日報ビューポイント (2013/5/5)

渡辺 久義

私は困り果てている。今、私の頭にあることをすべて正直に書いたとしたら、私は頭がおかしくなったと思われるだろう。しかし、そう思われるのを覚悟の上で誰かが発言しないと、もう限界を突破していよいよ收拾がつかなくなることが、いま連日蓄積していると私は考えている。私はこれを、ここに書かせていただく者としての私の社会的責任だと思っている。そこで私の言うことが、この程度なら正常さを疑われないだろうというギリギリの予想の上にこれを書く。

私は本紙の原田記者と共著の本（『ダーウィニズム 150 年の偽装』）で、皮肉を込めて「学者的躰のよさ」という言葉を使った。これは、ある限度を超えて物を言わないこと、例えば学問の唯物論的前提を疑ったりしないことを指す。これが我々の社会的躰のよさにもなっている。新聞やテレビで言わないことは、言うてはならない（良俗に反する）ことになっている。しかし今、これは誰かタチの悪い者たちが仕掛けたものではなかったのかと、疑ってみるべき時期が来ている。（この躰を守らないと制裁を受ける！）。

そこで私は読者の前に自分の不明を詫びようと思う。先日の連載記事で原田氏も言及していた、あの車椅子の理論物理学者ホーキング博士の本（共著）The Grand Design を、私は以前この欄で批評した（「異常なホーキング氏の新著」2011/1/24）。私はそこで、この本は神のデザインを否定する趣旨の本なのだから、「偉大なるデザイン」というタイトルは全く不可解だ、たぶん ID への皮肉であろうが皮肉としても理解不能だ、というようなことを書いた。これは私の考えが甘かった。

今、私は自信をもって言えるが、これは「偉大なるルシファー（悪魔）のデザイン」という意味である。（邦訳は、直訳では辻褄が合わないから全く別の題になっているが、「偉大なるデザイン」とそのまま訳さなければ、著者や企画者の意図を裏切る。）

私には「今頃気付いたのか、馬鹿め」と笑う「悪魔の哄笑」が聞こえる。この本は、人間には自由意志などない（つまり誰かの傀儡）、生命はゲームの疑似生命と本質的に変わらない、といった馬鹿げた主張をしているが、これは明確に意図的な、人間に対する愚弄（ナイーブな者には愚民政策）である。この人間そのものに対する堂々たる呪詛や愚弄が「彼ら」のやり方である。Hide out in the open(公然と隠れる)と彼らは言っている。前回、

私の言及した「ジョージア・ガイドストーンズ」に刻まれた「人類は5億に減らそう（＝あなたには死んでいただきましょう）」という提案がその好例だ。

ホーキング氏自身が本当にこれを書いたとは私には思えないが、真相はわからない。しかし彼がこの大陰謀団（the Cabal、イルミナティ）に利用されていることは、昨年のロンドン・パラリンピック開会式に出演したことから明らかである。このオリンピックのショー全体が悪魔崇拝の不気味なシンボルに満ちていたことは、多くの人が指摘している。もちろん一々の場面や所作の隠された意味はわからないとしても、全体として、人間に対する公然と隠した呪詛に満ちたものであったことは明白だ。例えば開会式に、なぜ沢山の白い病床が持ち込まれ、醜悪な巨大な魔女が現れ、巨大な（たぶん生け贄の）赤ん坊が現れるのか？ これがオリンピックにどう関係するのか？ またパラリンピックの閉会式では、手足が鰭のように短い身体障害者の巨大な裸像がご神体のように置かれていた。これは身体障害者を神聖なもののように祭り上げることによって、却って彼らを侮辱するものである。まともな人間のすることではない。かつて左翼が被差別部落を神格化し、これに異を唱えると、「人でなし」と逆襲してきたのと、同じ論理が待っているのであろう。

これと同じ堂々たる人間への呪詛と愚弄の見事な例が、アメリカのデンバー国際空港に見られる。どうかネット上の画像で見ていただきたい。表で利用客を迎える馬（黙示録の「青白い馬」、乗り手は死神）の像と、古代エジプトの死神「アヌビス」の像、それに客の通路を飾る不気味きわまる数点の壁画。

こうした一連のものが、ある特定の信仰あるいは文化をもつ者たちの作品であることは疑いようがない。次に引用するのは、アルバート・パイクという彼らの大先輩の一八七一年の文章である——「我々はニヒリストや無神論者を世に放ち、恐ろしい社会的地殻変動を引き起こさせるであろう。その時それは恐怖のうちに、諸国家に対し、絶対的な無神論の効果と、野蛮性の起源と、血まみれの混乱を見せつけるであろう。そして至る所で、市民は、少数の革命家たちから自分たちを守ろうとして、これら文明の破壊者を根絶し、大衆はキリスト教に幻滅して、ルシファーの純粋な教義の宇宙的な顕現によって、純粋な光を受け入れるだろう…」

20世紀の世界は、彼らのこの計画の通りに展開した。そして現在、その最終決着とともに、宇宙は新しく生まれ変わろうとしている。これは長大なイモヅルのごく一部である。